



# BRINGING PEOPLE TOGETHER

シンガーソングライター

## シンディ・ローパー

### 世界的ポップアイコン ツアー引退を発表

2024年6月、1980年代を代表する世界的ポップアイコン、シンディ・ローパーがツアーからの引退を発表した。「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」や「トゥルー・カラーズ」などの大ヒット曲で有名な彼女は、大の親日家としても知られ、2011年東日本大震災の発生直後も、他の海外アーティストが帰国する中で日本にとどまり、コンサートを行ったことを記憶している人も多いだろう。'25年4月に大阪と東京で最後の来日ツアーを行う彼女が、名曲の誕生秘話や引退ツアーに込めた思いなどについて語った。



インタビュアー

**クリスティアン・アマンプール**

イラン人の父と英国人の母を持つ。生まれはロンドンだが、幼少期はテヘランで過ごした。英国でジャーナリズム養成講座を修了。渡米し、ロードアイランド大学でジャーナリズムを専攻し、首席で卒業。1983年、CNNに入社。数々の紛争地帯で現地取材を行い、ジャーナリストとして高い評価を得ている。2021年に卵巣がんで卵巣の摘出手術を行ったことを発表。現在も第一線で活躍する。

ゲスト

**シンディ・ローパー**

1953年、米ニューヨーク生まれの歌手・女優。12歳にしてギターを弾き、歌詞を書き始める。1978年、ロック・バンド「ブルー・エンジェル」を結成し、'80年にレコードデビュー。'83年にアルバム『シーズ・ソー・アンジュアル』でソロ・デビューし、全世界で1600万枚以上(当時)という驚異的なセールスを記録。代表曲に「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」、「タイム・アフター・タイム」、「トゥルー・カラーズ」など。



Listening Quiz

**52** 「歌うのは自由を感じられること」

**Christiane Amanpour** Patti LaBelle, who you sang with, basically says, “Cyndi does what she wants to do.” And, you know, it’s not always easy for a woman in any business, much less in the music business. How did you get to be that person? Were you always the person who got to do what she wanted to do, or was that a struggle?

**Cyndi Lauper** Well, you know, it wasn’t, like, “Hi! What’s your name? Sure, you can do what you want to do.” You know, I didn’t take every opportunity that came my way, because it wasn’t an opportunity to me. I sing because it makes me feel free. And I didn’t feel free if I had to stand and sing to someone else’s beat, someone else’s rhythm, someone else’s speech.

And I wanted to make music that was inclusive. I wanted to make collaborations with the people that I loved. And when I was in situations where it was a compromise, it also gave me an opportunity to learn about how I could make that my own too.

**Amanpour** Famously, you made “Girls Just Want to Have Fun” yours out of somebody else’s, because it was written by a guy called Robert Hazard. He wrote the original. And I want you to explain what the original meant and how you changed it.

**Patti LaBelle:**

パティ・ラベル ▶フィラデルフィア出身のシンガー、俳優。「ゴッドマザー・オブ・ソウル」と呼ばれ、シンディ・ローパーとは公私にわたって親しい。

**much less:**

まして〜でない

**struggle:**

奮闘、苦闘

**take every opportunity**

**that comes one’s way:**

人生に訪れるあらゆる機会をつかむ

**inclusive:**

全ての人に開かれた、参加する人を限定しない

**collaboration:**

合作、共同制作作品

**compromise:**

譲歩、妥協

**famously:**

周知のとおり

**make A B out of C:**

Cを元にAをBにする

**“Girls Just Want to Have Fun”:**

「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」 ▶1983年リリースのソロ・メジャーシングル第1弾。ソロ・デビューアルバム『シーズ・ソー・アンジュアル』に収録された。

**Robert Hazard:**

ロバート・ハザード

▶ニューウェーブのミュージシャン。1980年代にRobert Hazard and the Heroesとしてフィラデルフィアのクラブシーンで人気を博す。

**クリスティアン・アマンプール** あなたと一緒に歌っておられたパティ・ラベルさんが、要は、こう言っています、「シンディは自分のやりたいことをやる」と。ですが、どんな職業でも、それは女性にとって必ずしも簡単ではありませんよね、ましてや音楽業界では。どのようにしてそういう人間になったのですか。昔から自分のやりたいことができるというタイプの人だったのですか、それとも相当な苦勞の結果ですか。

**シンディ・ローパー** そうですね、まあ、「やあ！ 何て名前？ もちろんいいよ、やりたいようにやれよ」というわけではありませんでした。（一方）私は訪れたあらゆるチャンスをつかんだわけでもないわ。だって、それは私にとって（必ずしも）チャンスじゃなかったから。私が歌うのは、自由だと感じられるからです。他の人のビート、他の人のリズム、他の人の言葉に合わせて歌わなくちゃいけないなら、自由だとは感じなかった。

それに私はね、みんなを受け入れられる音楽を作りたかったんです。大好きな人たちと一緒にやりたかったの。それに、妥協するような状況になったときも、どうすればそれを自分のものにできるか学ぶチャンスにもなったしね。

**アマンプール** 有名な話ですが、あなたは「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」を他の人のものから自分のものにしましたね。つまり、あれはロバート・ハザードという男性が書いたものでした。彼がオリジナルを書いた。オリジナルの曲はどんな意味を持つものだったのか、それをあなたはどう変えたのか、教えてくださいませんか。



フィラデルフィア出身の歌手で俳優のパティ・ラベル(上)。シンディ・ローパーの代表曲の1つ、「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」は元々はロバート・ハザード(下)によるものだが、ハザードの了解のもと、シンディ自らが歌詞を変更し、女性の社会的地位に対する賛歌としてリリースされた